

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月30日

北海道教育委員会教育長 様

北海道苫小牧総合経済高等学校長 島 瀬 展 成 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

楽しいと思える学校づくり～高校3年間でしか経験できない教育活動の充実～

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の指導内容・ねらいを明確化し、目標に応じた指導に積極的に取り組んだ。 習得した知識等は、シラバスで示した目標に照らし十分であり、生徒の内発的動機付けに工夫を凝らした授業と学習評価への取組を実践した。 課題の設定、整理分析、まとめなどの学習活動を実践に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の特色を生かした学習活動が行われている。 引き続き、地域の教育力を活かしていただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> すべての教職員が主体的に研修を行い、学習観・指導観の転換につなげるとともに専門高校としての特色を生かした指導の充実を目指す。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 適切な目標設定のサポートや自己決定の機会の提供、結果に対する責任の取り方等への指導に取り組んだ。 未然防止、早期発見に向け、生徒情報の把握、提供、共有に取り組んだ。 授業をはじめ、特別活動や部活動等とおして、積極的に生徒に声掛けに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導上の課題は日々変化しており、問題が見えない内容も増えているが、生徒とのコミュニケーションを大切にしたい指導を継続して行ってほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導上の課題に対し、組織で対応できるよう、日常からの情報共有と関係機関との適切な連携体制を構築する。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生涯に渡って学ぶ意欲や働く意味について理解を深める教育活動の実践に取り組んだ。 授業や面談等を通して適性を見極め、多様な進路情報の提供とアドバイスに取り組んだ。 進路指導部、家庭や関係団体等との連携を深めながら組織的な進路指導を実現に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な視点からの意見を取り入れた活動、また、取組の見直しなどを行う必要がある。行う必要がある。 家庭や関係団体等との連携を更に深めながら組織的な進路指導の充実を努めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と学年との連携を密にし、3年間を見据えた系統立てたキャリア教育の推進を図るとともに、家庭や関係団体等との連携を深めながら地域に求められる人材を育成できる組織的な進路指導の充実を図る。 	
健康安全教育	<ul style="list-style-type: none"> 生命尊重や健康・安全に対する習慣と態度を高めさせる指導に取り組んだ。 教育相談体制の充実を図りながら、健康意識を高めさせる指導に取り組んだ。 講演、訓練、特別活動等を通して、意識を高める指導に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「判断できない」という回答が増加している。取組の可視化や判断基準の整備が必要である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 日常からの防災意識の向上と、心身の健康について自ら考え、行動できる生徒を育成するために校内組織の連携を充実させる。 	
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解のもと、目標達成に向けた教育活動を実践した。 学校ウェブや通信等を活用した情報発信及び外部機関との連携を実践に取り組んだ。 評価から授業や業務等の改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した教育活動が行われている。 学校の情報発信について、デジタルとアナログの効果的な組み合わせを考えながら情報発信をすると効果的であると考ええる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 地域に必要とされる学校として、専門高校の学びを地域に還元できる機会を増やし、学校の魅力発信の場を創出する。 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け職員間でのコミュニケーションを充実させることで縦横の連携を図り、分掌・学年の業務内容について全職員が共有・理解し、組織の機動力を高められるような取組を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の個性を活かしながら対話を重視して取り組んでほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 経営方針等を踏まえ、課題解決に向け職員間での対話の質と量の両方を高めることができるよう校内研修等の充実を図る。 前年踏襲ではなく、積極的に新しい取り組みに着手しようとする職場風土を醸成する。 	
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 職務規律、危機管理を意識し校務に当たった。 教職としての知識技能を求め、実践を積み重ねながら教育活動の充実を生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害等への危機管理意識の向上が求められる。 教職員が積極的に地域と繋がり、人材育成や卒業生の活躍の場を在校生に伝えるなど、地域とともにある学校づくりに尽力していただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応について、マニュアルの再確認、校内研修による知識技術の習得を図る。 働き方改革のより一層の推進のため、個人の意識改革と組織としての業務内容の見直しを推進する。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校Webページでの公表を予定 ・PTA会議等での公表を予定 	

3 添付書類

- 令和7年度 自己評価書・学校関係者評価書、生徒・保護者アンケート